

平成 30 年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

介護の歩むべき道

奈良文化高等学校 一年 松田 馨

私の父は、鍼灸マッサージ師、母は柔道整復師です。自宅で鍼灸整骨院を開業しています。二人とも昼の時間帯は、介護施設で高齢者の方の為に機能訓練指導員として働きに出かけます。

食事や日常の会話の中でも、介護施設での話や介護保険制度の話などが度々出てきます。ちょうど一年前、私の祖母が脳出血で倒れました。発見が早かったため、命に別状はありませんでしたが、右脳の出血だった為に左側に麻痺が残り、今でもリハビリを頑張っています。祖母の家は祖母が少しでも過ごしやすいように、壁やお風呂には手すりが付き、介護用ベッドが置かれていました。また、介護タクシーや色々なサービスがある事も知りました。

そこでふと考えてみると、私達が病気や怪我をした時に使っている健康保険や高齢者や介護が必要な人が使う介護保険の財源はどこから出ているのか不思議に思いました。

少し調べてみると、私達が少ない負担で病院に行く事ができるのは、多くの税金が使われているからだとなりました。今の日本は超高齢化社会といわれており、介護にかかる費用は増加の一途をたどっているようです。

介護サービスの利用者は約六一四万人、自己負担額も含めた介護給付費は九・七兆円になったと厚生労働省の発表があり、私は金額の大きさにびっくりしました。九・七兆円のうちの半分が四十歳以上の人達によって納付が義務づけられている。保険制度で、あとの半分は税金から支払われています。だんだん歳をとっていくと身体は思うように動かなくなり、また、病気のリスクは高まります。だから歳をとって行けば行くほど、介護費用が増えていくのは当たり前です。国の借金と介護費用や社会保険は増加する一方でどこかで見直していかないといけない状況にあります。

これから、ますます増えていく高齢化社会。私達が高齢者になる頃には、今と同じ様に保障制度と税金だけでは介護保険や医療費は増えていく一方だと思います。

祖母が倒れて介護の事を知り、私達の大事な税金をより良く使うために、もっともっとみんなで真剣に考えていかないといけないと思います。